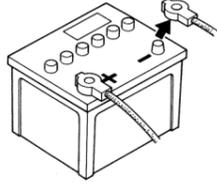
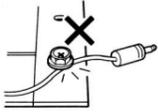


取り付ける前に

- 作業中のショート事故防止のため、必ずバッテリーのマイナス端子のコードを外しておいてください。



- 安全運転のため運転の妨げにならないところに、また本機背面のファンの換気を妨げず放熱効果が十分発揮されるようなところに取付けてください。
- 取り付ける前に仮接続をして本機が正しく動作するか確認してください。
- 取り付けには必ず付属の部品(ネジなど)を指定通り使用し、しっかり固定してください。指定以外の部品を使用しますと内部の部品がこわれたり、ゆるんで外れたりすることがあります。
- ネジやナットを締めるとき、他の配線をはさみ込まないように注意してください。
- 車体やねじ部分、シートレール等の可動部に配線をはさみ込まないように注意してください。
- 取り付けが困難な場合はお買い上げの販売店にご相談ください。



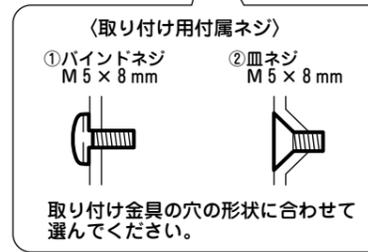
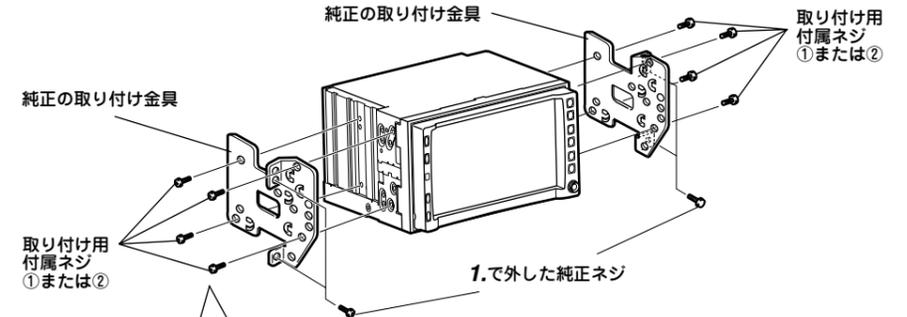
ご注意

- 取り付け金具(車のブラケット)を本機に取り付ける際は、必ず付属のネジ(長さ8mm)をお使いください。8mm以上のネジを使用しますと故障の原因になります。
- 本機を取り付けるときは、水平な場所を選びパーキングブレーキをかけ、エンジンキーを「OFF」にしてから行なってください。
- 配線をするときは、車両電源配線用コード以外で延長しないでください。コードの被覆が破れ、ショート・発熱により火災となったり電流容量オーバーにより火災の原因となります。

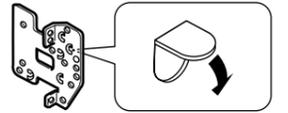
取り付け方法

- 純正のオーディオを外す
- 本機に純正の取り付け金具を取り付ける
- 接続する(裏面を参照)
- 車両に固定する

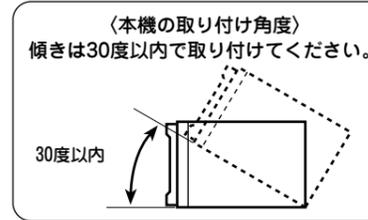
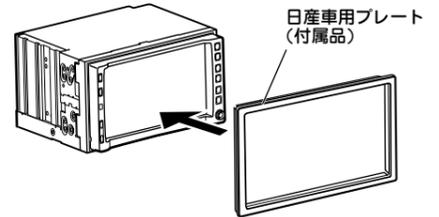
- イラストは一例です。詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。



- 外したネジ類は紛失しないように大切に保管してください。
- 取り付け金具のツメがじゃまになるときは、折り曲げて平らにして使います。



- 日産車に本機を取り付ける場合は、日産車用プレート(付属品)をお使いください。



安全上のご注意 —はじめにお読みください。—

警告

- 本機はDC12Vマイナスアース車専用です。**
 - 大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車で使用しないでください。火災・故障の原因となります。
- 配線作業中は、バッテリーのマイナス端子のコードを外す。**
 - ショート事故による感電やけが、火災の原因となります。
- 電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源コードを接続することは絶対にしない。**
 - リード線の電流容量をオーバーし、火災・感電の原因となります。
- 本機を、前方の視界を妨げる場所やステアリング、シフトレバー、ブレーキペダル等の運転操作を妨げるなど運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けない。**
 - 交通事故やけがの原因となります。
- 車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行う。また、加工部のさび止めや浸水防止の処置を施す。**
 - 交通事故や火災の原因となります。
- 取り付けやアース線を接続する場合は、ステアリング、ブレーキ系統、またはタンクなどの保安部品のビスは絶対に使用しない。**
 - これらを使用しますと制動不能や発火・事故の原因となります。
- エアバックのカバー部分や作動の妨げになる場所に、絶対に取り付けない。**
 - エアバックが正常に動作しなかったり、動作したエアバックで本機や部品が飛ばされ、事故やけがの原因となります。

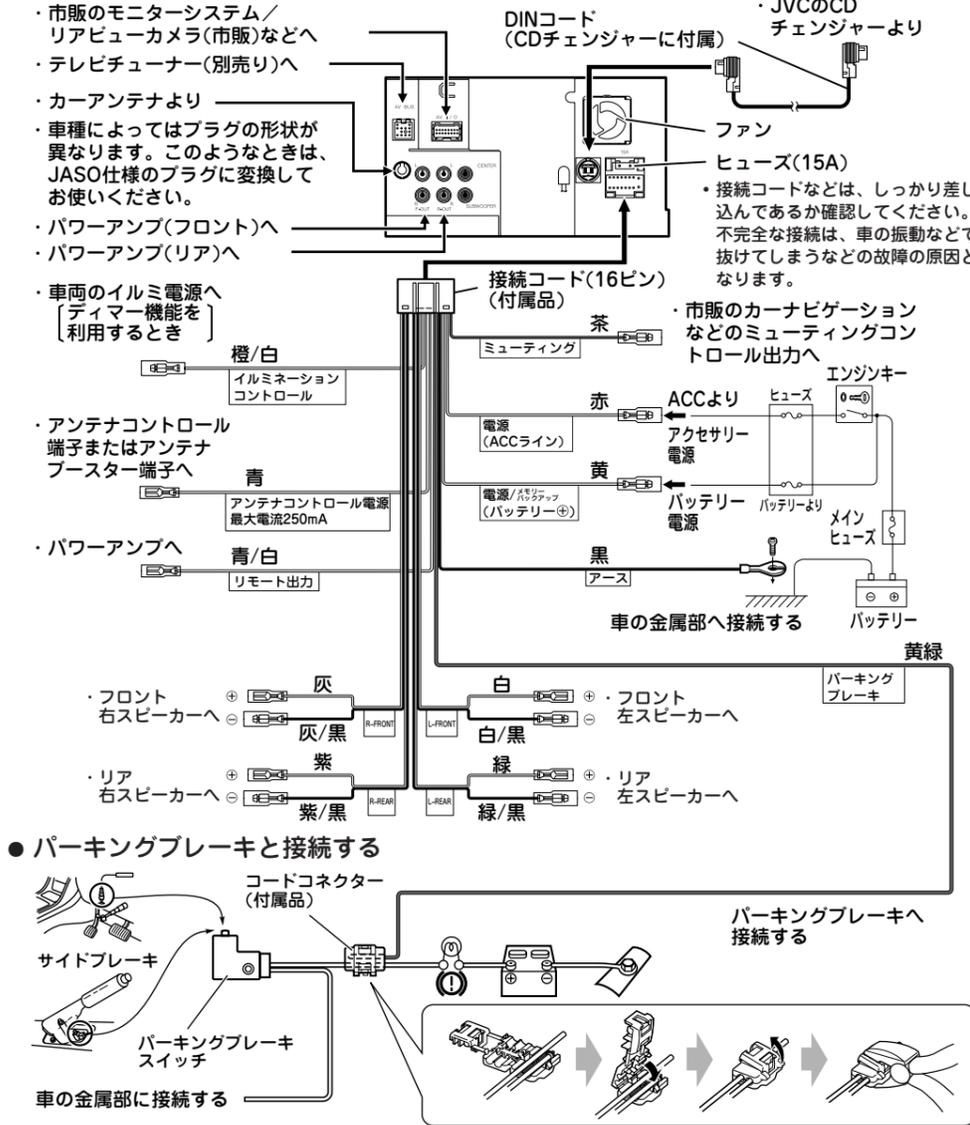
注意

- 本機取り付けや取り外し・配線には、専門技術と経験が必要です。**
 - 安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。
 - 場合によっては、本機が熱くなっていることがありますので火傷やけがに十分ご注意ください。
- 必ず付属の部品を指定通り使用する。**
 - 指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できず外れたりして事故やけがの原因となることがあります。
- 雨が吹き込むところなど、水のかかるところや湿気やほこりの多いところへの取り付けは避ける。**
 - 本機に水や湿気、ほこりが混入しますと発煙や発火・故障の原因となることがあります。
- 本機を不安定なところに取り付けない。**
 - 正しい設置を行わないと、事故や故障の原因となることがあります。
- 振動の多いところなど、しっかり固定できないところへの取り付けは避ける。**
 - 外れて事故やけがの原因となることがあります。
- 正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。**
 - 接続が終わったら車のブレーキランプ、ホーンなどが正しく動作することを確認してください。
- 車体やねじ部分、シートレール等の可動部に配線をはさみ込まないように注意する。**
 - 断線やショートにより、事故・感電・火災・故障の原因となることがあります。
- 必ずパーキングブレーキコードを接続してお使いください。**
 - 交通安全のため、走行中はモニター映像が表示されず、音声のみとなります。また停止状態でもサイドブレーキを引かないと、映像は表示されません。
- 本機を運転や視野、エアバックなどの安全装置の動作を妨げる場所に設置しないでください。**

接続のしかた —必ずお読みください。—

基本の接続 —4スピーカーシステムの接続例—

● 本機の接続コードの色は、車側の変換ハーネスの色とは異なることがあります。よく確かめてから接続してください。



〈お知らせ〉

- 使用しないコードは、ビニールテープなどで絶縁しておいてください。
- アース線を車の金属部に接続するさい、接続面が塗装してあるときは、はがしてからアース線を取り付けてください。
- 接続したスピーカーにあわせて、スピーカーサイズ、スピーカー距離やアンプゲインの設定をしてください(⇒取扱説明書52、53、56ページ参照)。
- アンテナコントロール電源の接続について
電動アンテナ装備車およびアンテナブラスター装備車の場合は、**アンテナコントロール電源**コード(青)を車両側の対応する端子(アンテナコントロール)に接続してください。ソース(音源)を「ラジオ」にすると自動的にアンテナ(ブラスター)側に電源が供給されます。「CD-CH」や「DISC」などにソース(音源)を切り換えると、自動的にアンテナ側への電源が切れます。また一部の車種では、アンテナ線からアンテナコントロール端子が出ていることがあります。本機の**アンテナコントロール電源**コード(青)をこの端子に接続してください。
※ **アンテナコントロール電源**コード(青)の最大コントロール電流は250mAです。

● リアビューカメラと接続したとき(⇒右図参照)

バックランプと連動して、バックする際にカメラの映像を表示することができます。この場合、本機の**リバースギア信号**コード(紫/白)をバックランプのコードに接続します。そのあと「メニューでいろいろな設定をする」の「AV入力」を「カメラ通常」もしくは「カメラ反転」に設定します(⇒取扱説明書53ページ参照)。

● 市販のカーナビゲーションシステムと接続したとき

市販のカーナビゲーションシステムのボイスコマンド入力時または音声ガイド中に、本体の音声を一時的に消音(ミュート)することができます。この場合、本機の**ミュート**コード(茶)をミュートコントロール出力に接続します。接続については、お使いのナビゲーションシステムの取扱説明書も併せてご覧ください。

ご注意

ミュートコード(茶)の接続について
市販の全てのカーナビゲーションシステムとの接続で、動作を保証するものではありません。万一、正しく動作しないときは、接続を外してください。

● 接続が終わったあとの動作確認について

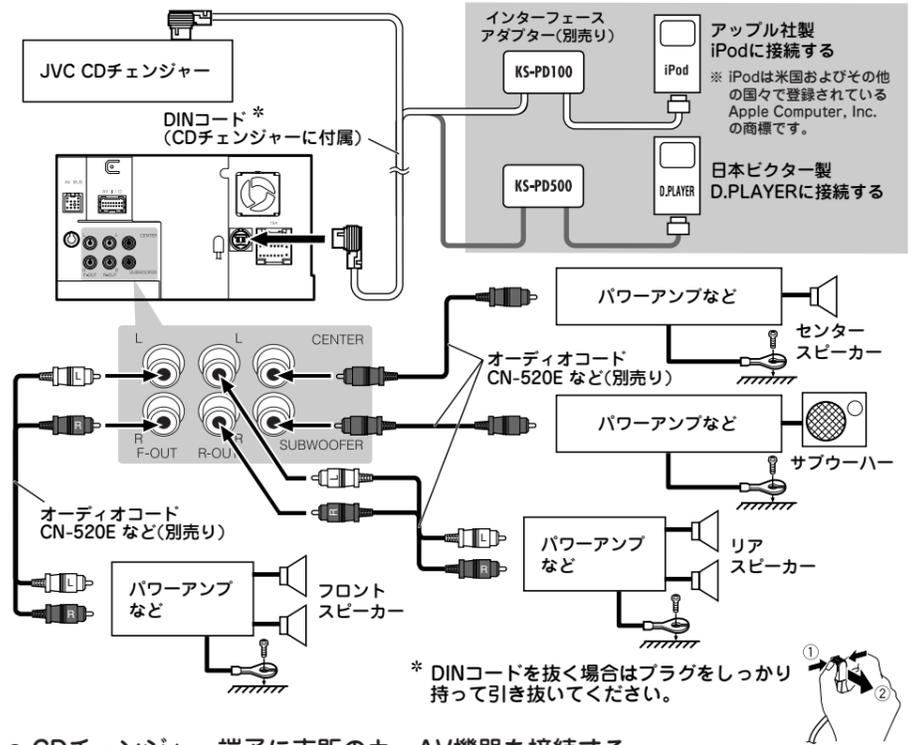
まず車のエンジンをかけてから、本機の電源を入れてください。次にリセットボタン(⇒取扱説明書66ページ参照)を押して本機をリセットしてください。そのあと正しく動作するかお確かめください。エンジンキーが「OFF」または「ACC OFF」の状態では電源を入れることができません。

- それでも本機が正しく動作しないときは、取扱説明書66～71ページの「故障かな?と思う前に」をご覧ください。

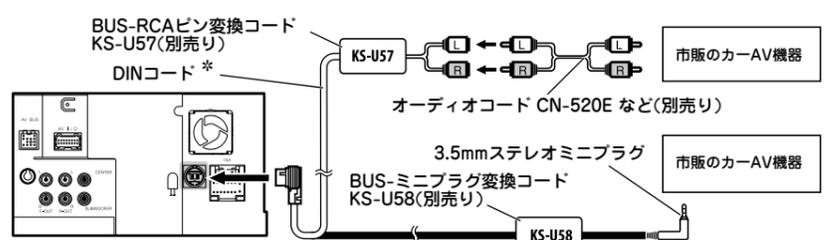
システムアップする場合

—取り付けが終わったら各機器で、リセットの操作をしてからお使いください。—
※接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

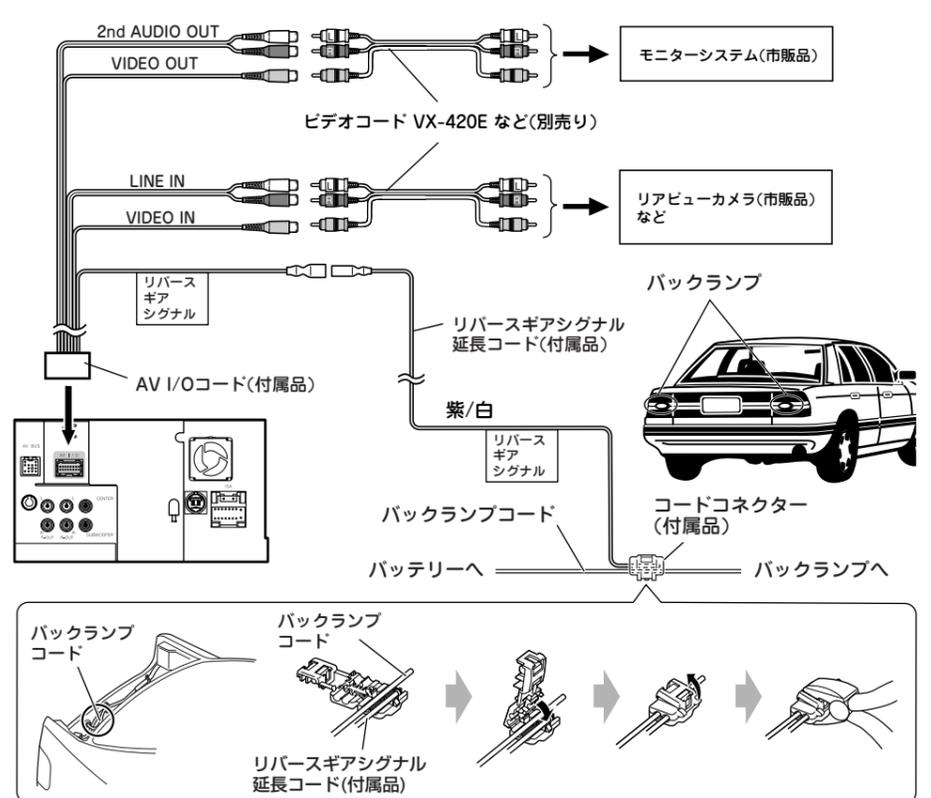
● 別売りのCDチェンジャー、デジタルオーディオプレーヤー、パワーアンプなどに接続する



● CDチェンジャー端子に市販のカーAV機器を接続する



● 市販のモニターシステム、リアビューカメラなどに接続する



● TVチューナーを接続する

